

事業報告書（令和5年度）

事業名 遊んで実感！環境問題を自分ごとに捉えるための体験学習プロジェクト

団体名 穠子ども会 担当者名 泉 明佳

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
<p>8/12（土）～8/13（日）にかけて、犬島・犬島自然の家でさい子ども会の会員児童と保護者28人、大学生ボランティア3人・オブザーバー参加者2人、岡山自主夜間中学校生徒・保護者5人の計38人（内幼児4人）で海遊び、海岸清掃、海の環境学習を行った。実施にあたっては、昔の風習を考慮してもらいたいと思い、お盆の日（8/13）は水辺で遊ぶことは禁止にして海岸清掃と環境学習だけとした。</p> <p>また、11/12（日）はさい・さい東町から百間川せせらぎ広場までの道路で川に至るまでの道路清掃の後、川遊びとしてせせらぎ広場で魚釣りを行った。参加者は小学生11人、保護者7人、大学生ボランティア1人の19人で、さい子ども会の会員児童だけでなく近くの小学生も参加した。</p>
2. ESDの視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
<p>海岸清掃ではプラスチックや発泡スチロールなどの軽いゴミが多かったが、道路清掃では様々な種類のゴミが捨てられている事を実感できていた。特に、道路清掃ではタバコの吸い殻や食べ物（パンやコンビニの食べ物）の袋が多いと感じていた。</p>
② どのように学び合いを取り入れたか
<p>海岸清掃の後、大学生（ボランティア）から海的环境について講義の後に、質問や意見交換を行った。また、初対面の岡山自主夜間中学校生徒との交流（ボール遊び等）だけでなく、ボランティア・参加者ともに交流する時間を設けた。</p>
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
<p>学習だけでなく実際に楽しく遊んだ場所の清掃を通すことで、生活圈と普段関わりの少ない海とがつながっている事を改めて実感してもらった。特に、海岸と生活圈（道路）で落ちているゴミの種類が違うことを通じて、生活圈に落ちていたゴミがなぜ海では無くなっていたのかを考えるきっかけになっていた。</p>

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

参加者への環境問題に対する意識の変化では、これまでは海岸ゴミのニュースを耳にする事はあったものの特段意識する事はすくなかったが、海岸に流れ着くゴミだけでなく、海全体を考えて生活圏のゴミを減らす取り組みが必要との意見があった。

また、自主夜間中学校生徒との交流では、初対面同士の子ども達が 1 日でお互いを理解することは難しかったが、自由時間には一緒に遊ぶ様子も見られたことから、遊びを通すことで今後の話やお互いの理解を深めるきっかけになったと感じられた。

計画としては考えていなかったが、参加した小学生から「魚釣りゲームは得意でめっちゃ遊んでるけど、初めてのリアル魚釣りの方がもっと難しくて面白かった。」との感想があった。現在は小学生の頃からインターネットを通じた情報収集やデジタルでの疑似体験が多い中、実際の体験・経験の重要さを感じた一言だった。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

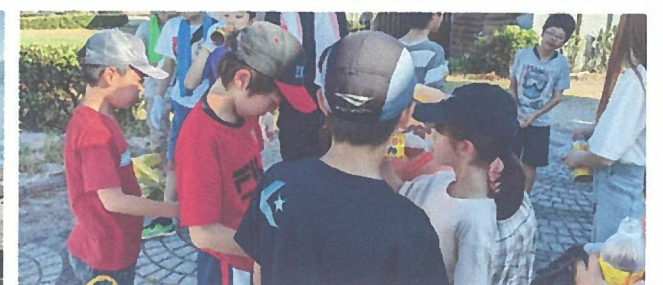
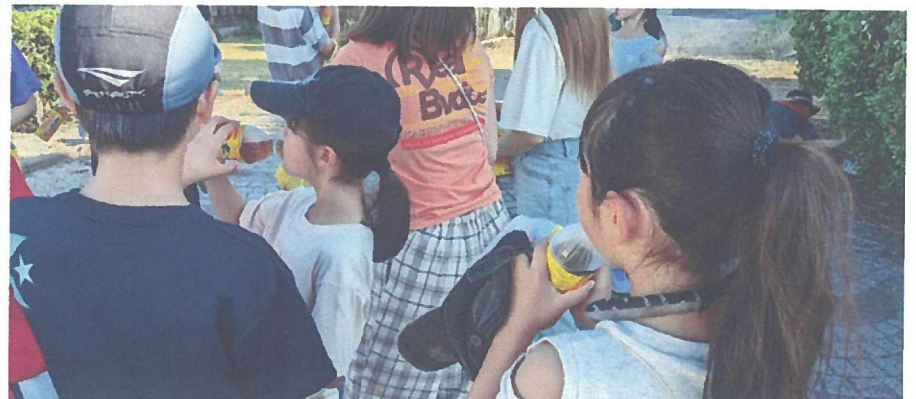
遊びを通じた環境学習は子ども達も楽しく学習できて理解しやすいと感じたが、正直な感想としては、1 からの企画・運営はボランティアだけで運営している子ども会では時間の制限もあり難しいと思った。しかし、企業の提供している（事業として成り立ちやすい）スタディツアーのような企画だけでなく、自分達が身近に感じている SDGs 目標をテーマにした体験学習が ESD には必要だとも感じている。

今後の展望としては、子ども会に限らず、子ども達に身近な団体が参考にできるように環境学習以外のテーマでも「遊びを通じた体験学習」の内容を公開することで、自分達が体験学習を実施するハードルが下がり、多くの団体が実施できるようになればと思っている。

海遊びと交流



海岸清掃



大学生から海の環境学習の講義



ふりかえり



道路清掃と川遊び

